歴史的景観保全活用事業 令和3年度事業実績

<事業の概況>

1 歴史的建造物の保全活用

- (1) 歴史的建造物の登録
- (2) 歴史的建造物の認定
- (3) 現状変更行為に対する指導及び助言
- (4) 歴史的建造物の保全契約
- (5) 特定景観形成歴史的建造物
- (6) 歴史的建造物に対する助成
- (7) 文化財等の活用に関する検討

2 「歴史を生かしたまちづくり」に関する普及啓発

- (1) 都市デザイン 50 周年事業
- (2) 歴史を生かしたまちづくり横濱新聞の発行
- (3) サイン等の整備

3 その他

- (1) 歴史的景観保全委員
- (2) 関連団体等
- (3) 歴史を生かしたまちづくり相談室の運営
- (4) ふるさと納税「歴史的景観保全活用事業」の運用
- (5) 歷史的建造物台帳登録調查
- (6) 文化財保存活用地域計画の策定検討

<資料>

- 横浜市認定歴史的建造物一覧表
- 横浜市認定解除歴史的建造物一覧表
- 横浜市登録歴史的建造物保全契約一覧表
- 横浜市特定景観形成歴史的建造物一覧表
- 第16期 横浜市歴史的景観保全委員名簿
- 歴史を生かしたまちづくりセミナー開催実績
- 歴史的景観保全事業 事業費の推移
- ふるさと納税「歴史的景観保全活用事業」寄附額の推移

<事業の概況>

横浜には、都心臨海部を中心に、開港以来の近代建築や西洋館、土木産業遺構が残されており、郊外部には、農村の風情を伝える古民家や社寺が残されています。これらの歴史的資産を高く評価し、まちづくりの重要な資源として位置付け、保全活用を積極的に行うことで歴史を生かしたまちづくりを展開しています。この思想のもと、昭和63年度に横浜市独自の要綱である「歴史を生かしたまちづくり要綱」を施行し、以降、その趣旨に基づき取組を進めています。

同要綱では、景観的に価値の高い歴史的建造物を「登録」し、そのうち、特に重要なもので、将来の保全活用計画について所有者の同意が得られたものを「認定」することが可能となっています。この制度は、歴史的景観の保全を目的としており、外観を保全する代わりに、内部は歴史的建造物の魅力をいかしつつ使いやすいように改修することができ、凍結的な保存より、現役で長く使い続けてもらうことを狙いとしています。

令和3年度には、中区日ノ出町〜長者町にかかる震災復興橋梁である「長者橋」を新たに認定し、令和4年3月末時点で「登録」は206件、そのうち「認定」は98件となりました。

歴史的建造物に認定されると、外観保全、耐震改修(構造補強)や維持管理の費用等が助成の対象となります。令和3年度は山手133番館(令和2年度認定)の外観保全・耐震改修工事の費用の一部を助成した他、33件の歴史的建造物の維持管理費用の一部を助成しました。

近年では、歴史的建造物の積極的な活用を行う事例が増加傾向にあります。令和4年4月1日付で、再整備された旧円通寺客殿(認定歴史的建造物、特定景観形成歴史的建造物)を含む金沢八景権現山公園が開園しました。また、中区赤レンガ倉庫では、大規模な改修工事が実施されており、令和4年末にはリニューアルオープンを予定しています。中心部・郊外問わず様々なエリアで歴史的建造物の利活用が進んでいます。

また、令和3年度は歴史を生かしたまちづくりを含む都市デザインの取組が50周年を迎えました。これを記念し、これまでを振り返る事業として講演会や展覧会を実施し、特に展覧会では1万人以上の動員が有りました。

一方、相続問題や開発、耐震性に対する所有者の不安など、歴史的建造物の保全活用を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。こうした背景や、令和3年度に実施した都市デザイン50周年事業等においてこれまでの取組を振り返ったことを受け、今後はこれからの歴史を生かしたまちづくりの方向性を改めて検討していく必要があります。

1 歴史的建造物の保全活用

(1) 歴史的建造物の登録

景観上価値がある歴史的建造物について、歴史を生かしたまちづくり要綱第4条に基づき登録しています。令和2年度末までに206件の歴史的建造物を登録しました。令和3年度の新たな登録はありませんでした。

「登録歴史的建造物総括表]

種別	令和2年度	令和3年度	合 計
社	23 件		23 件
古 民 家	28 件		28 件
近代建築(除:西洋館)	54 件		54 件
西洋館	38 件		38 件
近代和風建築	6件		6件
土木産業遺構	56件		56 件
近現代建築物	1件		1件
合 計	206 件	±0件	206 件

(2) 歴史的建造物の認定

登録歴史的建造物のうち特に重要な価値を有する歴史的建造物について、歴史を生かしたまちづくり要綱第 10 条に基づき認定しています。令和 2 年度末までに 97 件の歴史的建造物を認定しています。

令和3年度は、「長者橋」を新たに認定し、合計件数は98件となりました。

「認定歴史的建造物総括表]

種別	令和2年度	令和3年度	合 計
社 寺	0件		0件
古 民 家	14件		14 件
近代建築(除:西洋館)	32件		32 件
西洋館	23 件		23 件
近代和風建築	2件		2件
土木産業遺構	26 件	+ 1	27 件
近現代建築物	0件		0件
合 計	97 件	+1件	98 件

(3) 現状変更行為に対する指導及び助言

歴史を生かしたまちづくり要綱第7条・第15条に基づき歴史的建造物の現状変更行為の通知・届出を受け、同第8条・第16条に基づき、それらに対する指導及び助言を行ないます。

令和3年度には、認定歴史的建造物の改修等で5件の現状変更行為届出書・通知書 が提出され、個別に指導及び助言を行ないました。

(4) 歴史的建造物の保全契約

歴史を生かしたまちづくり要綱(第9条)に基づき歴史的建造物の保全活用について所有者と保全契約を締結しています。

令和2年度末までに3件(「横浜海洋会館」「ジャパンエキスプレスビル」「横浜貿易会館」)の保全契約を締結しています。

令和3年度に新たに保全契約を締結した歴史的建造物はありませんでした。

(5) 特定景観形成歴史的建造物

「横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例」(第14条の2)に基づき特定景観形成歴史的建造物の指定を行ないます。特定景観形成歴史的建造物に指定されると建築審査会の同意を得て建築基準法の適用除外とすることが可能となります(建築基準法第3条第1項第3号)。

令和2年度末までに2件(「旧円通寺客殿(旧木村家住宅主屋)」「旧藤本家住宅主屋及び東屋」)を指定しています。令和3年度に新規に指定した歴史的建造物は有りませんでした。

なお、旧円通寺客殿(旧木村家住宅主屋)については、令和3年度内に改修工事が完了し、これを含む金沢八景権現山公園が令和4年4月1日付で新たに開園しました。

(6) 歴史的建造物に対する助成

歴史を生かしたまちづくり要綱(第21条)に基づき歴史的建造物の保全活用に関する改修、維持管理等に対して助成を行ないます。

令和3年度は、外観保全及び耐震改修工事1件、維持管理33件に対する助成を行いました。

<令和2年度 工事助成対象事業>

・ 山手 133 番館:外観保全工事(屋根の改修)、耐震改修工事

(7) 文化財等の活用に関する検討

国指定文化財、市指定文化財及び登録文化財等の活用検討や保全に関する技術支援 を行ないます。

令和3年度に新たに保全及び活用に関する技術的支援を行った案件は有りませんで した。

2 「歴史を生かしたまちづくり」に関する普及啓発

(1) 都市デザイン 50 周年事業

令和3年度は横浜市の組織に都市デザイン担当が発足して 50 周年を迎えたことから、これを記念し複数の事業を企画・実施してきました。

<開催実績>

(1)プレ展示

市役所 2 階のプレゼンテーションスペース及び市役所 1 階展示スペースにて断続的に 50 年の取り組みの紹介を簡易展示

【市役所2階プレゼンテーションスペース】

1970 年代: R 3 /10/19 - 10/31

1980 年代: 11/2 - 11/14 1990 年代: 11/16 - 11/29

2000年代:R4/1/8 - 1/20

2010年代: 1/22 - 1/2

【市役所1階展示スペース】

一斉展示: 3/3 - 3/9、3/20 - 3/27

(2)講演会

第1回「横浜都市デザイン~個性あるまちなみの原点を探る~」

日 程:2021年10月30日(土)13時半~16時

登壇者:岩崎駿介氏(元企画調整局都市デザイン担当)

国吉直行氏(横浜市立大学客員教授)

ファシリテーター:卯月盛夫氏(早稲田大学教授)

第2回「身近な地域資源をいかしたまちづくり~水と緑のまちづくり~|

日 程:2021年12月17(金)

登壇者:宮澤好氏(元都市デザイン室職員)

吉村伸一氏(吉村伸一流域計画室/元横浜市職員)

ファシリテーター:滝澤恭平氏(ランドスケープ・プランナー、水辺総 研取締役)

第3回「みなとみらい 21 のまちづくり~まちの未来を"共有"する~」

日 程:2022年3月6日(日)

登壇者:浜野四郎氏(清水建設株式会社・元横浜市みなとみらい推進担当)

恵良隆二氏(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団・元三菱地所) ファシリテーター: 坂和伸賢氏((一社)横浜みなとみらい 21 理事長)

第4回「歴史を生かしたまちづくり~歴史的景観が市民生活を豊かにする~」

日 程:2022年3月27日(日)

登壇者:西脇敏夫氏(元都市デザイン室長)

六川勝仁氏 (馬車道商店街協同組合理事長)

西村幸夫氏(國學院大學観光まちづくり学部長/東京大学名誉教授)

コーディネーター:米山淳一氏((公社)横浜歴史資産調査会常務理事)

(3)展覧会

「都市デザイン 横浜」展

開催日時:令和4年3月5日(土)~4月24日(日)

※当初3月29日(火)に終了予定だったが好評のため会期延長

※これまでの取組をまとめたカタログ「都市デザイン 横浜」を同時発売

(2) 歴史を生かしたまちづくり横濱新聞の発行

歴史を生かしたまちづくり事業に関して、特に年内の事業や広報すべき案件について市民に周知するため、歴史を生かしたまちづくり横濱新聞を発行しています。

<令和3年度 発行実績>

歴史を生かしたまちづくり 横濱新聞 第37号

発行: 令和2年11月30日

発行部数: 3,500 部

配布場所:市民情報センター、各区広報相談係、各図書館、山手西洋館 など

(3) サイン等の整備

歴史的建造物の周知・普及のため、認定歴史的建造物の表示や、街路での歴史的建造物案内サインの整備等を行なっています。

令和3年度はふるさと納税を充当し山手133番館(令和2年度認定)の認定プレートの製作を行いました。

3 その他

(1) 歴史的景観保全委員

歴史を生かしたまちづくり要綱(第22条)に基づき、専門家の意見を取り入れ、歴 史的景観の保全と活用を図るため歴史的景観保全委員を置いています。

令和3年度は令和元年度より継続して13名の委員を置き、連絡調整会議を2回(第一回:6月18日、第二回:12月27日)開催し歴史を生かしたまちづくりに関する意見の聴取を行ないました。また、個別の歴史的建造物の保全活用についても各担当委員から意見聴取を行いました。

(2) 関連団体等

公益社団法人横浜歴史資産調査会と「歴史を生かしたまちづくり事業」に関する実施協定を締結し歴史を生かしたまちづくりに関する取組を推進しています。

また、歴史的景観都市連絡協議会に加盟し情報交換等を行なっています。

(3) 歴史を生かしたまちづくり相談室の運営

歴史的建造物所有者支援の一環として公益社団法人横浜歴史資産調査会と連携し 「歴史を生かしたまちづくり相談室」を運営しています。

令和3年度は1件の新規相談を受けました。また、過年度からの複数の相談案件について継続して相談を受けています。

<歴史を生かしたまちづくり相談室概要>

連絡先 : 公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ) 内

「歴史を生かしたまちづくり相談室」係

電話 : 045-651-1730

※毎週水曜日 午前 10 時から午後 3 時まで(年末・年始・祝日を除く)

FAX : 045-651-1730 (随時)

Eメール:yh-info@yokohama-heritage.or.jp (随時)

郵送 : 〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室(随時)

(4) ふるさと納税「歴史的景観保全活用事業」の運用

平成28年度からふるさと納税の支援メニューの中に「歴史的景観保全活用事業」 支援を追加しています。当該制度を通じた支援は、まちなかの歴史的建造物を紹介す る「サイン・説明板」の製作・設置、景観上重要な歴史的建造物を使い続けまちづく りの中で活用していくための「リノベーションに対する助成金」を使途としています。

<ふるさと納税実績(令和3年度)>

金額:5,842,720 円

件数:168件(個人167件、団体1件)

(5) 歴史的建造物台帳登録調査

昭和63年度から、市内の歴史的、建造物的、景観的価値の高い建造物について台帳を整理し、登録調査を継続しています。最新の調査は令和2年度に実施しています。

(6) 文化財保存活用地域計画の策定検討

横浜市中期4か年計画に「横浜らしい歴史文化に関わる基本的な構想」の策定が施策として定められており、文化財保護法により定められた「文化財保存活用地域計画」 策定することにより、未指定も含めた市内の文化財とその周辺環境までを一体的に捉え、市民の文化財への関心や理解を促進し、計画的な保存・活用の推進を目指しています。令和3年度は教育委員会、文化観光局と連携し作成検討を進め、教育委員会が事務局となり3回の協議会を開催しています。

横浜市認定歴史的建造物一覧表

令和 4 年 3 月末 現在 98 件

				現在 98 件
	名 称	種別	所在地	認定時期
1	損保ジャパン日本興亜横浜馬車道ビル	近代建築	中区	
2	横浜指路教会	近代建築	中区	昭和 63(1988)年度
3	カトリック山手教会聖堂	近代建築	中区	
4	旧横浜船渠第2号ドック	土木産業遺構	西区	
5	横浜海岸教会	近代建築	中区	亚라三(1000)左南
6	横浜山手聖公会	近代建築	中区	平成元(1989)年度
7	岩田健夫邸	西洋館	中区	
8	横浜第2合同庁舎(旧生糸検査所)	近代建築	中区	亚子 0 (1000) 左连
9	旧澤野家長屋門	古民家	鶴見区	平成 2 (1990)年度
10	石橋邸	西洋館	中区	
11	旧藤本家住宅主屋及び東屋	古民家	鶴見区	平成 3 (1991)年度
12	関東学院中学校	近代建築	南区	
13	ホテルニューグランド本館	近代建築	中区	平成 4 (1992)年度
14	綜通横浜ビル(旧本町旭ビル)	近代建築	中区	T-1 5 (1000) 1- 15
15	旧東伏見邦英伯爵別邸	近代建築	磯子区	平成 5 (1993)年度
16	松原邸	西洋館	中区	
17	宇田川邸	西洋館	中区	
18	BEATTY邸 (ビーティ邸)	西洋館	中区	
19	エリスマン邸	西洋館	中区	平成 6 (1994)年度
20	ブラフ 18 番館	西洋館	中区	
21	中澤高枝邸	西洋館	港北区	
22	カトリック横浜司教館別館	西洋館	中区	
23	カトリック横浜司教館(旧相馬永胤邸)	西洋館	中区	
24	旧安西家住宅主屋	古民家	瀬谷区	亚
25	旧大岡家長屋門	古民家	瀬谷区	平成7(1995)年度
26	旧金子家住宅主屋	古民家	戸塚区	
27	旧円通寺客殿(旧木村家住宅主屋)	古民家	金沢区	
28	新川家住宅主屋	古民家	旭区	
29	旧臨港線護岸	土木産業遺構	中区	亚式 9 (1006) 左帝
30	港一号橋梁	土木産業遺構	西区	平成8(1996)年度
31	港二号橋梁	土木産業遺構	中区	
32	港三号橋梁(旧大岡川橋梁)	土木産業遺構	中区	
33	長浜ホール(横浜検疫所長浜措置場旧細菌検 査室、横浜検疫所長浜措置場旧事務棟)	近代建築	金沢区	平成 9 (1997)年度
34	旧清水製糸場本館(天王森泉館)	古民家	泉区	

	名 称	種別	所在地	認定時期
35	横浜情報文化センター(旧横浜商工奨励館)	近代建築	中区	
36	岡田邸	西洋館	中区	平成 10(1998)年度
37	横浜地方・簡易裁判所(旧横浜地方裁判所)	近代建築	中区	
38	山手資料館	西洋館	中区	亚代 11/1000) 左应
39	山手 234 番館	西洋館	中区	平成 11(1999)年度
40	せせらぎ公園古民家(旧内野家住宅主屋)	古民家	都筑区	
41	東隧道	土木産業遺構	保土ケ谷区	
42	大原隧道	土木産業遺構	南区	
43	浦舟水道橋	土木産業遺構	南区	亚代 12/2000) 左连
44	馬車道大津ビル(旧東京海上火災保険ビル)	近代建築	中区	平成 12(2000)年度
45	旧横浜市外電話局	近代建築	中区	
46	横浜税関	近代建築	中区	
47	旧英国七番館(戸田平和記念館)	近代建築	中区	
48	ベーリック・ホール	西洋館	中区	
49	山手 76 番館	西洋館	中区	
50	中丸家長屋門	古民家	泉区	
51	響橋	土木産業遺構	鶴見区	平成 13(2001)年度
52	昇龍橋	土木産業遺構	栄区	
53	山手随道	土木産業遺構	中区	
54	赤レンガ倉庫	近代建築	中区	
55	日産自動車株式会社横浜工場1号館(旧本社ビル)	近代建築	神奈川区	T \ 1.1/0.000\ /- \
56	旧奥津家長屋門並びに土蔵	古民家	緑区	平成 14(2002)年度
57	新港橋梁	土木産業遺構	中区	
58	旧東京三菱銀行横浜中央支店	近代建築	中区	
59	旧富士銀行横浜支店(元安田銀行横浜支店)	近代建築	中区	
60	旧横浜銀行本店別館(元第一銀行横浜支店)	近代建築	中区	
61	伊東医院	近代建築	戸塚区	平成 15(2003)年度
62	旧ウィトリッヒ邸	西洋館	戸塚区	
63	旧居留地消防隊地下貯水槽	土木産業遺構	中区	
64	打越橋	土木産業遺構	中区	
65	旧横浜松坂屋西館	近代建築	中区	
66	桜道橋	土木産業遺構	中区	平成 16(2004)年度
67	霞橋	土木産業遺構	西区・南区	
68	インド水塔	近代建築	中区	
69	谷戸橋	土木産業遺構	中区	平成 17(2005)年度
70	西之橋	土木産業遺構	中区	

	名 称	種別	所在地	認定時期
71	旧バーナード邸	西洋館	中区	
72	山手 89-8 番館	西洋館	中区	
73	旧平沼専蔵別邸亀甲積擁壁及び煉瓦塀	土木産業遺構	西区	平成 18(2006)年度
74	二代目横浜駅基礎等遺構(第二代横浜駅駅舎 基礎遺構および横浜共同電燈会社裏高島発電 所遺構)	土木産業遺構	西区	
75	フェリス女学院 10 号館(旧ライジングサン 石油会社社宅)	近代建築	中区	平成 19(2007)年度
76	ストロングビル	近代建築	中区	
77	旧灯台寮護岸	土木産業遺構	中区	平成 20(2008)年度
78	横浜税関遺構 鉄軌道及び転車台	土木産業遺構	中区	平成 21(2009)年度
79	インペリアルビル	近代建築	中区	平成 22(2010)年度
80	慶應義塾大学(日吉)寄宿舎(南寮及び浴場 棟)	近代建築	港北区	平成 23(2011)年度
81	井伊直弼像台座及び水泉	土木産業遺構	西区	
82	フェリス女学院 6 号館別館	西洋館	中区	
83	河合邸	西洋館	中区	平成 24(2012)年度
84	旧神奈川県産業組合館	近代建築	中区	
85	旧神奈川労働基準局(元日本綿花横浜支店倉 庫)	近代建築	中区	
86	山手 26 番館	西洋館	中区	平成 25(2013)年度
87	霞橋(旧江ヶ崎跨線橋)	土木産業遺構	中区	十成 23(2013) 年及
88	旧横浜生糸検査所附属生糸絹物専用 B 号倉庫 及び C 号倉庫	近代建築	中区	
89	鈴木家長屋門	古民家	旭区	平成 26(2014)年度
90	田邊家住宅(日吉の森庭園美術館)	古民家	港北区	平成 27(2015)年度
91	俣野別邸	西洋館	戸塚区	平成 28(2016)年度
92	旧市原重治郎邸	近代和風建築	神奈川区	亚式 20(2017) 生产
93	中山恒三郎家店蔵及び書院	西洋館	都筑区	平成 29(2017)年度
94	井土ケ谷上町第一町内会館(旧井土ケ谷見 番)	近代和風建築	南区	平成 30(2018)年度
95	吉野橋	土木産業遺構	南区	
96	旧横浜外防波堤北灯台及び南灯台	土木産業遺構	鶴見区・中区	令和元(2019)年度
97	山手 133 番館	西洋館	中区	令和 2 (2020)年度
98	長者橋	土木産業遺構	中区	令和 3 (2021)年度

横浜市認定解除歴史的建造物一覧表

令和4年3月末現在

3件

	名称	種別	所在地	認定時期 認定解除時期
1	 横浜松坂屋本館(旧野澤屋横浜松坂屋本館)	近代建築	中区	平成 16(2004)年度認定
	以为"人"的"人"的"人"的"人"的"人"的"人"的"人"的"人"的"人"的"人"的		· -	平成 22 年 3 月 15 日解除
2	 日本ビクター第一工場ファサード	公子	神奈川区	平成 11(1999)年度認定
	日本ビクター第一工場ファサード 近代建築 神奈川		作示川区	平成 22 年 12 月 20 日解除
2		+ D ÷	45	平成 12(2000)年度認定
3	旧新井家住宅主屋(八巻家) 	古民家	中区	平成 30 年 4 月 24 日解除

横浜市登録歴史的建造物保全契約一覧表

令和4年3月末現在

3件

	名 称	種別	所在地	契約期間
1	横浜海洋会館	近代建筑	40	令和2年3月31日~
1	(関) (供) (供) (付) (d) (d)	近代建築中区		令和 12 年 3 月 30 日
2	 ジャパンエキスプレスビル	\C /\\ 7+25	45	平成 26 年 5 月 7 日~
		近代建築中区		平成 36 年 5 月 6 日
2	横浜貿易会館	\C (4) (4) (5)	40	令和元年9月9日~
3	(関決員勿玄路	近代建築	中区	令和 10 年 9 月 8 日

横浜市指定特定景観形成歴史的建造物一覧表

令和4年3月末現在

2件

	名 称	種別	所在地	指定時期
1	旧円通寺客殿(旧木村家住宅主屋)	古民家	金沢区	平成 27(2015)年度
2	旧藤本家住宅主屋及び東屋	古民家	鶴見区	平成 28(2016)年度

第 16 期 横浜市歴史的景観保全委員

令和3年4月1日現在 (五十音順、敬称略)

	氏 名	現職等
1	青木 祐介	横浜市ふるさと歴史財団横浜開港資料館・横浜都市発展記念館 副館長 (有識者)
2	内田 青蔵	神奈川大学教授(専門:日本近代建築史、日本近代住宅史)
3	大野 敏	横浜国立大学大学院教授(専門:日本建築史・古建築保存修復)
4	小澤 美那	元山手資料館 館長(歴史的建造物保全活動者)
5	黒田 泰介	関東学院大学教授(専門:歴史的都市と建築の保存・再生)
6	後藤 治	工学院大学教授(専門:歴史的建築物及び町並の保存修復、歴史的建築物の保存に関わる制度)
7	志澤 政勝	元 横浜みなと博物館 館長 (有識者)
8	嶋田 昌子	NPO 法人横浜シティガイド協会理事(有識者)
9	関和明	関東学院大学名誉教授(専門:建築史、西洋館)
10	中藤 誠二	関東学院大学教授(専門:土木工学)
11	水沼 淑子	関東学院大学名誉教授(専門:近代日本住宅史)
12	宮 晶子	miya akiko architecture atelier 代表(有識者·建築家)
13	吉田 鋼市	横浜国立大学名誉教授(専門:建築史、近代建築)

※任期 令和2年4月1日~令和4年3月31日

歴史を生かしたまちづくりセミナー開催実績

回	開催年月日	テーマ
1	平成元年3月18日	港周辺の近代建築
2	平成元年8月26日	ウォーターフロントの歴史的資産
3	平成元年 10 月 12 日	歴史的環境を生かした都市の再生
4	平成2年3月31日	絹の道 ~市民ネットワーク
5	平成2年12月1日	横浜山手の西洋館
6	平成3年3月16日	茅葺き民家とそのくらし
7	平成3月11月16日	歴史的資産の保全と活用 - 内外事例に学ぶ-
8	平成4年2月15日	横浜の洋家具
9	平成4年5月16日	歴史的資産の保全と活用 - その制度を考える -
10	平成5年11月23日	日本の近代化を支えた横浜の銀行建築
11	平成6年1月29日	まちなみを文化に昇華する - 歴史的文化遺産を生かしたまちづくりの方法論・英国・横浜-
12	平成7年2月25日	都市の記憶を描く! - 歴史的建造物の見方・描き方 -
13	平成7年11月25日	産業遺産の保存と活用を考えるシンポジウム
14	平成8年2月10日	歴史ある民家や洋館に楽しく住まう
15	平成8年6月25日	来て・見て・感じて! - 西洋館の移築復元- (外交官の家)
16	平成9年6月19日	ようこそ外交官の家へ〜国の重要文化財「旧内田家住宅」見学会〜
17	平成10年3月7日	横浜の鉄道ものがたり
18	平成 10 年 7 月 18 日	都市の記憶を描く -関内・山手歴史的建造物絵画展-(~8 月 16 日)
19	平成 11 年 12 月 4 日	緑の中の歴史的建造物を訪ねよう ~横浜南部偏~バスで巡る近代建築・古民家見学ツアー~
20	平成 12 年 3 月 19 日	絵画で感じる横浜の歴史
21	平成 13 年 1 月 27 日	新春ファミリー・ウォークラリー ~ぶらり訪ねる金澤・称名寺と駅前の歴史的建造物 ~
22	平成13年3月4日	建築探偵、横濱に来る! ~藤森照信氏が語るハマの歴史的建造物の魅力~
23	平成 13 年 11 月 10 日	丘の上の学舎をめぐる~南区の歴史的建造物
24	平成14年3月3日	港ヨコハマの知られざる魅力 ~土木遺産偏~
25	平成 14 年 12 月 15 日	港ヨコハマの移りかわりと行き交う人々 〜絵から読み解く港ヨコハマ〜
26	平成 15 年 12 月 13 日	京浜工業地帯と日本自動車産業の成立
27	平成 16 年 3 月 20 日	関内周辺てくてくウォッチング ~歴史的建造物の魅力大発見!!~
28	平成 16 年 9 月 18 日	横浜・谷戸の住まいとくらし ~旧奥津家住宅見学と周辺散策~
29	平成 18 年 3 月 11 日	様式から見た近代建築 〜関内周辺近代建築散策〜
30	平成 19 年 3 月 10 日	横浜三塔物語
31	平成 20 年 3 月 8 日	アントニン・レーモンド生誕 120 周年記念 建築家アントニン・レーモンドを知る
32	平成 22 年 3 月 20 日	金沢八景と明治の別荘文化 ~旧伊藤博文金沢別邸~
33	平成 23 年 11 月 6 日	近代建築の見方、楽しみ方
34	平成 24 年 12 月 8 日	日吉の近代建築
35	平成 25 年 11 月 10 日	歴史を生かしたまちづくり 25 周年 記念講演・シンポジウム
36	平成 26 年 6 月 9 日	明日の歴史を生かしたまちづくり
37	平成 27 年 2 月 21 日	今を生きる古民家の保存と活用
38	平成 27 年 6 月 24 日	みんなで支える明日の「歴史を生かしたまちづくり」

回	開催年月日	テーマ
39	平成 28 年 7 月 16 日	石の記憶
40	平成 29 年 9 月 9 日	震災復興橋梁 in 大岡川
41	平成 30 年 7 月 15 日	いぶし銀のまちづくり: 〜生活・文化の視点から、まちを再評価する〜
42	令和元年8月4日	野毛山のヒミツ ~どうしてハマっ子の憩いの場になったのか?~
43	令和 2 年 12 月 5 日 令和 2 年 12 月 12 日	旧横浜市庁舎の保全・活用から考える、街のサステナビリティ (第 43 回歴史を生かしたまちづくりセミナー+JIA 神奈川建築フォーラム 連携企画)

※令和3年度は都市デザイン50周年事業の中で以下の講演会を実施

第1回「横浜都市デザイン~個性あるまちなみの原点を探る~」

日 程:2021年10月30日(土)

第2回「身近な地域資源をいかしたまちづくり~水と緑のまちづくり~」

日 程:2021年12月17(金)

第3回「みなとみらい21のまちづくり~まちの未来を"共有"する~」

日 程:2022年3月6日(日)

第4回「歴史を生かしたまちづくり~歴史的景観が市民生活を豊かにする~」

日 程:2022年3月27日(日)

歴史的景観保全事業 事業費の推移

(千円)

左庇	予	算	決!	算
年度	事業費	市債+一般財源	事業費	市債+一般財源
平成 17 年度	22,000	22,000	35,615	28,019
平成 18 年度	74,000	74,000	41,507	40,707
平成 19 年度	67,500	62,300	68,867	62,617
平成 20 年度	68,000	48,000	94,370	62,370
平成 21 年度	76,300	52,300	76,098	42,098
平成 22 年度	48,900	7,070	45,496	4,078
平成 23 年度	62,550	15,430	61,124	15,414
平成 24 年度	80,820	80,820	80,356	80,356
平成 25 年度	70,595	70,595	39,718	39,718
平成 26 年度	65,080	65,080	77,074	77,074
平成 27 年度	36,950	36,950	36,044	36,044
平成 28 年度	42,045	32,045	33,710	28,019
平成 29 年度	57,110	41,110	38,130	31,735
平成 30 年度	54,999	41,999	50,865	37,865
令和元年度	47,599	42,599	41,110	41,110
令和2年度	39,699	35,699	31,201	31,201
令和3年度	47,246	47,246	36,232	36,232

ふるさと納税「歴史的景観保全活用事業」 寄附額の推移

	企業・団体		個人		計	
年度	件数	寄附額 (円)	件数	寄附額 (円)	件数	寄附額 (円)
平成 28 年度	1	2,000,000	31	3,658,000	32	5,658,000
平成 29 年度	0	-	45	968,000	45	968,000
平成 30 年度	5	48,100	38	1,265,000	43	1,313100
令和元年度	1	2,200	28	610,005	29	612,205
令和2年度	1	12,500	72	1,903,500	73	1,916,000
令和3年度	1	6,720	167	5,836,000	168	5,842,720